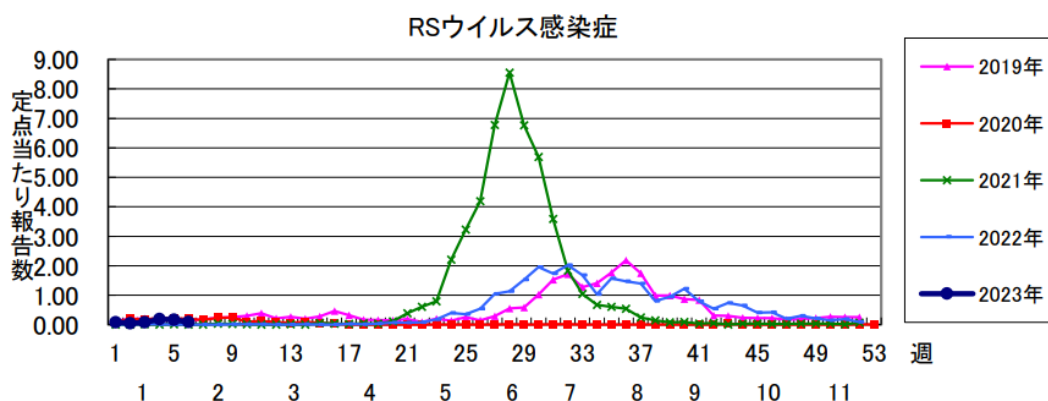


千葉県におけるRSウイルス感染症流行予測とパリビズマブ投与について 2023年～2024年シーズン（第1報）

日本小児科学会は、2019年4月に、最新のエビデンスと、現在の医療状況を反映したコンセンサスに基づく、「日本におけるパリビズマブの使用に関するコンセンサスガイドライン」を公表した。ガイドラインと千葉県内のRSウイルス感染症流行状況を考慮して、千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループは、2023～2024年シーズンの流行状況を勘案し、パリビズマブ投与について以下を提案する。

1. 2023年2月15日時点において、一部の都道府県で患者報告が認められているが、全国的にRSV流行は認められていない。<https://www.small-baby.jp/rsvirus/trend.html>。
2. 千葉県内において、定点あたり報告数は、2023年6週分（2/6～2/12）では県全体で計11例の報告（定点あたり報告数0.08人）があったが、前週から減少している。地域では、8保健所管内（船橋、習志野、市川、松戸、印旛、長生、君津、市原）から患者報告があったが、定点あたり報告数1.0人を超えた地域はない。
3. 周辺の都県（東京都・埼玉県・神奈川県・茨城県）の定点あたり報告数は0.06人～0.29人程度と、東京都、茨城県に若干の増加が見られたが、概ね低水準で推移している。
4. 千葉県内においては、新型コロナウイルス感染症流行後、2021年は5月から2022年は6月からRSVが流行した（下図参照）。
5. 上記の点を考慮し、2023～2024年シーズンにおいては、2023年5月からパリビズマブ投与が開始できるように準備をしておく必要があると考える。
6. 千葉県内において、パリビズマブ投与は、適応病名に関わらず、1シーズンあたり7回を目安に投与することを本ワーキンググループは提案している。ただし、感染症発生動向調査、患者周囲の流行状況、各地区医師会からの情報、近接都県の流行状況および個々の対象児のリスク等を勘案して、投与回数を柔軟に設定する。



2023年2月20日

日本小児科学会千葉地方会 千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループ

石和田稔彦 伊東宏明 大曾根義輝 岡田広 門倉圭佑 北澤克彦 佐藤雅彦 戸石悟司
西崎直人 東浩二 菱木はるか 福島裕之 星野直